

令和5年度第3回人間文化研究機構教育研究評議会 議事概要

- 日 時： 令和6年3月13日（水） 10：00～12：00
- 場 所： 一橋講堂 中会議場1・2
- 出席者： 井上、宇田川、神作、木部、栗本、クレインズ、酒井、佐藤、設楽、関沢、田中、陀安、西谷、野家、速水、堀、前川、松本、宮崎、山極、吉田（和）、吉田（憲）、渡部の各評議員
- 陪席者： 若尾理事、小泉監事、丸山事務局長
- 事務局： 監査室長、歴博、国文研、国語研、日文研、地球研及び民博の各管理部長、本部事務局の総務課長、研究企画課長、財務課長、施設課長、その他関係職員
- 概 要：
議事に先立ち、事務局から、会議の定足数を満たしている旨の報告及び配付資料の確認等があった。

議 題：

（議事概要）

（1）令和5年度第2回議事概要について（資料1）

機構長から、令和5年度第2回教育研究評議会の議事概要について報告があった。

（審議事項）

（1）人間文化研究機構組織規程の改正等について（資料2）

宮崎理事から、資料2に基づき、人間文化研究機構組織規程の改正等について説明があり、審議の結果、了承された。

（2）総合地球環境学研究所における寄附研究部門の設置について（資料3）

栗本理事及び地球研所長の山極評議員から、資料3に基づき、総合地球環境学研究所における寄附研究部門の設置について説明があり、審議の結果、了承された。

（3）人間文化研究機構外部評価委員会規程の改正について（資料4）

栗本理事から、資料4に基づき、人間文化研究機構外部評価委員会規程の改正について説明があり、審議の結果、了承された。

（4）外部評価委員の選出について（資料5）

栗本理事から、資料5に基づき、外部評価委員の選出について説明があり、審議の結果、了承された。

（5）人間文化研究機構経営協議会委員について（資料6）

機構長から、資料6に基づき、令和6年度から就任する経営協議会委員候補者について説明があり、審議の結果、了承された。

（報告事項）

（1）人間文化研究創発センターの活動状況について（資料7）

宮崎理事から、資料7に基づき、人間文化研究創発センターの活動状況について報告があった。また、堀理事からDH事業に関して補足説明があった。

また、本件に関し、以下の意見があった。

- ・ 若い世代の研究者に対して、アドバイザリーボードからの意見をどのように浸透させていくかが今後の課題になるのではないかと。
- ・ 機構が社会との連携を重視していることが分かった。また、若い世代の研究者も社会との連携に意欲的であるのではないかと感じた。

- ・ アドバイザリーボードの一員となる経験は大変学びになるため、積極的に若い世代の研究者を取り込むべきである。
 - ・ 人文系の研究でも理系に倣った数量的な評価を求められている中で、研究の中身について評価、助言するアドバイザリーボードを上手く運営することが人文系の研究にとって重要である。
 - ・ 人文系の研究がどのように日本のアカデミズムを活性化していくことができるのか、世代を超えた議論をしながら、アドバイザリーボードのような機構の試みが力を発揮していくべきである。
 - ・ 機構や創発センターを中心に各機関を束ね、分野を超えた新しい研究スタイルの構築を進めていくべきである。
 - ・ アドバイザリーボードのメンバーは研究内容を完全に理解した上でアドバイスできるのか。
- ⇒ アドバイザリーボードは創発センターが推進しているプロジェクトを評価、助言の対象としており、プロジェクト代表とも相談を重ねながら、プロジェクトの学術的意義などを理解できるかを考慮してメンバーを選んだ。
- ・ アドバイザリーボードに研究内容について説明し、意見を求める機会も必要である。

(2) 人間文化研究機構教育研究評議会評議員について（資料8）

機構長から、資料8に基づき、令和6年度からの教育研究評議会評議員就任予定者について報告があった。

以上